

名取熊野三社と朝日巫女と朝日岳信仰

●リスペクトしている歴史サイトがある。「仙台まほろばの道」というサイトで東北地方各地を訪れ興味深い内容を専門的な解説で書いてくださっている。その中で、名取市の熊野三社の始まりが名取老女の「朝日巫女」のご神徳からということを知り興味がわいた。この巫女に朝日が付いているのは、単純に朝日岳信仰と関わりがあるので朝日を使っていたのではないだろうか…。さっそく熊野那智神社から調べてみた。



熊野那智神社

大朝日岳（山頂三角点）



■大朝日岳 →→80.557km→→→ 熊野那智神社 →→→ 80.557km→→→ 火雷神社（三春町富沢）
→→→ 80.557km→→→ 神社（不明・本宮市）



■熊野那智神社と那智観音堂

伝説によると、養老3年（719年）閑上浜の漁師が海底から御神体を引き上げたところ、その光の輝きの止まる所が高館山であったことから、そこに宮社を建て羽黒飛龍神として祀ったという。一方「閑上」の地名の由来として、貞観13年（871年）に霊験あらたかな十一面観音像が波に揺り上げられているのを漁師が見つke、それが現在高館山的那智神社に那智観音像として安置されている、という話も伝わっている。

その後、名取老女の熊野三神勧請にあたり、那智の分霊を当社に合祀し熊野那智神社と改称した。近世は伊達家の厚い崇敬を受けて、社殿の造営や社地の寄進などを受けた。明治元年（1868年）の太政官布による神仏分離令を受け、社殿に奉納されていた御正体である懸仏などが関係者によって密かに埋められたが、明治31年（1898年）7月の拝殿移築の際床下から再発見された。このうち、懸仏・銅鏡41点が国の重要文化財、懸仏・銅鏡114点が宮城県指定有形文化財となっている。かつては御神体が揺り上がった場所である閑上浜までの浜降り神事が行われ、正月には「カラスゴ（牛王宝印）」を氏子に配布していた。

■大朝日岳（朝日連峰・朝日岳）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳8年（7世紀末）、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に役行者が参籠修行し開山したという。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権現・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女躰権現（大日如来=木花咲耶姫命）。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。



●三処とは、大朝日岳、中岳、西朝日岳ではないかと思われる。



■火雷神社

案内板によれば、「京北野天満宮に発し、平将門一族の流浪地に祀られたことから起こったものとされる。当社も当初は小さな祠であったが、この地に社殿を建立し、同地の守り神として現在に至っている。祭神は火雷神で農耕の神である」としてあります。祭礼のときに奉納される「垢潜三匹獅子」は、三春町文化財に指定されています。

私たちの祖先は、山や木や岩、あるいは風や火や水といった自然の現象の中に神の存在を感じて畏れ敬いました。「続日本後紀」のような古い記録に、豊作を祈願して雷公を祀ったとありますが、現在の北野天満宮の本殿前にある火之御子社がそれです。後に菅公を北野にお祀りするようになったのも、菅公が『火雷天神』という神号を持っていたからだと言われています。福島県田村郡三春町富沢一ノ沢494
※春陽思ひ附阿津免草サイトより抜粋

●火雷天神=菅原道真公 そして平将門！ さらに出雲富族の富沢！



■神社（不明） 福島県本宮市稲沢坂ノ下36-1

●朝日岳信仰の衰退によりとつながる神社は小さいものが多い。

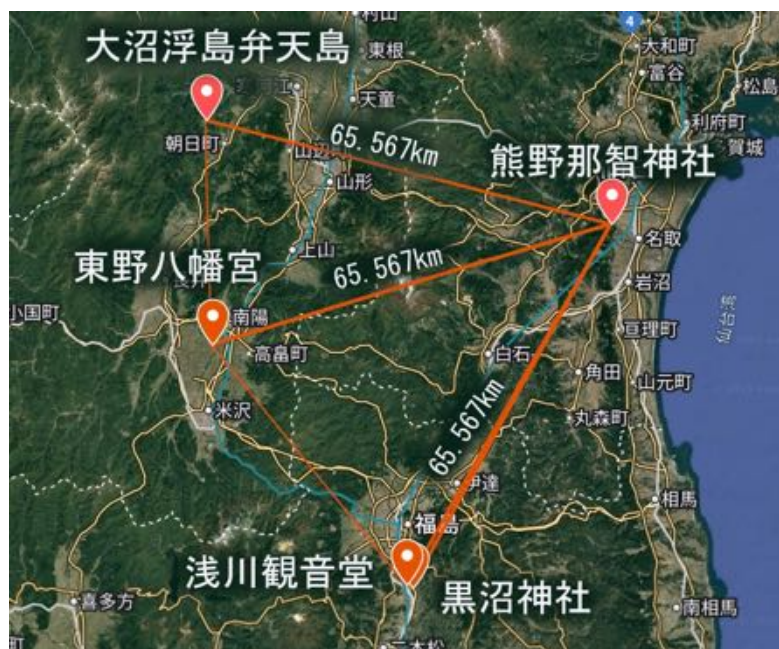
■熊野那智神社 →→80.557km→→→ 大朝日岳山頂 →→→ 80.557km→→ 高館観音堂



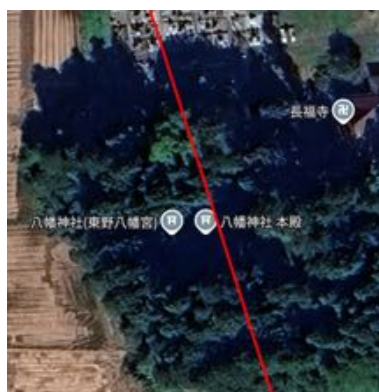
●大朝日岳から神気を引き込む配置。お寺の本堂と五重の塔も同じしくみ。

●名取老女の朝日巫女は大日如来の化身ともされているそうなので、大日如来の大朝日岳とつながって当然といえる。東北地方で密教最高神の大日如来を祀るのは朝日岳（679 年/役の小角）と湯殿山（807/弘法大使）のみ。

大沼浮島 弁天島（出島）



■大沼浮島 弁天島 →→65.567km→→→ 熊野那智神社 →→→ 65.567km→→ 東野八幡神社
 →→→ 65.567km→→ 浅川観音堂
 →→→ 65.567km→→ 黒沼神社



■熊野那智神社

伝説によると、養老3年（719年）閑上浜の漁師が海底から御神体を引き上げたところ、その光の輝きの止まる所が高館山であったことから、そこに宮社を建て**羽黒飛龍神**として祀ったという。

一方「閑上」の地名の由来として、貞観13年（871年）に靈驗あらたかな**十一面観音**像が波に揺り上げられているのを漁師が見つけ、それが現在高館山的那智神社に那智観音像として安置されている、という話も伝わっている。その後、名取老女の熊野三神勧請にあたり、那智の分霊を当社に合祀し熊野那智神社と改称した。

近世は伊達家の厚い崇敬を受けて、社殿の造営や社地の寄進などを受けた。明治元年（1868年）の太政官布による神仏分離令を受け、社殿に奉納されていた御正体である懸仏などが関係者によって密かに埋められたが、明治31年（1898年）7月の拝殿移築の際床下から再発見された。かつては御神体が揺り上がった場所である閑上浜までの浜降り神事が行われ、正月には「カラスゴ（牛王宝印）」を氏子に配布していた。

主祭神は羽黒飛龍神・伊弉冉尊で、相殿に黄泉事解男命・国常立尊・伊弉諾尊・天照皇大神を配祀する。
宮城県名取市高館吉田館山 8

■大沼浮島

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳9年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行われた。739 年には行基が訪れ浮島 66 個に国の名前を付けた。建久4年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。



山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。出雲族東王家の**富家**の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福が連れてきた海童たち秦族は蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが

稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「弁天島（出島）」（写真）が起点となっている。

●大沼には熊野神社はある。明治に浮嶋稲荷神社に合祀。

■黒沼神社

古事記の一節にも名を残す黒沼神社は、鎮座約 1300 年と伝えられ、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）・沼中倉太珠敷命（ヌナクラノフトタマシキノミコト、三十代目天皇 敏達天皇）をお祀りする神社です。古事記本文献にも記載されている『延喜式神名帳』に名前が残る、『陸奥國 信夫郡 黒沼神社』の論社の一社で、山の中の総社 延喜式式内社でもあります。国の重要無形民俗文化財の指定を受ける『金沢の羽山ごもり』と、四月の例大祭では県の重要無形文化財である『黒沼神社 十二神楽』が執り行われます。出羽三山神社をお創りになる時に建てられた羽黒二十一社の一社とも言われ、お祭りは全て旧暦の暦で行われています。伝説や由緒は様々あり、多くの書籍にも残される、古くからの神道の伝承が受け継がれる神社です。

金沢の羽山ごもり- 国指定重要無形民俗文化財 -

平安時代、神社近くに大きな蟹や大蛇が生息し人々に害を与えていたため、神社にこもり神のお告げを得てようやく退治することに成功したことからはじまったと伝えられています。千数百年の間、農民が神の託宣を受ける祭事として古来の原型に近い様式のまま伝承されているため、重要無形民俗文化財として国から指定を受けています。また、大きな蟹が生息していたということで蟹沢（かにさわ）と呼ばれていたのが転化して現在の地名『金沢（かねざわ）』になったとも云われています。※黒沼神社ホームページより

福島市松川町金沢宮ノ前 45

■東野八幡神社

延暦年間（782 年から 806 年）の創建と伝えられ源氏の氏神とされた鎌倉の鶴岡八幡宮の御分霊を勧請する。置賜百式拾壺々村総鎮守『東野八幡宮』と称えられ時の武将を始め、広く置賜一円の信仰を集める。特に伊達氏は厚く崇敬し松川の対岸に伊達家の菩提寺『資福寺』を設け毎朝菩提寺に参り、松川を船で渡り『東野八幡宮』へ参拝したという。平安時代後期。高倉天皇の時代、神事の湯釜の銘には「嘉応弍年四月三日津島村」とあり、創建当初は現在の鎮座地より東方へ約 500m の場所にあったらしい。近くを流れる松川の度重なる水害により、室町時代の後期、天文二十三年（1554）『伊達家十五代晴宗公』（伊達政宗公の祖父）の家臣、『湯目肥前守宗厚』（湯目景康・後の津田豊前景康）により現在の地に遷座する。彼の地には当時を物語る県一を誇る『薬師観音』と察せられる大石塔がある。また、願文付きでは県内最古の鎌倉時代中期、『文永五年十一月十三日』の銘がある。※猫武将・虎之助虎太郎武録より抜粋山形県東置賜郡川西町洲島 2 1 3 5 - 1

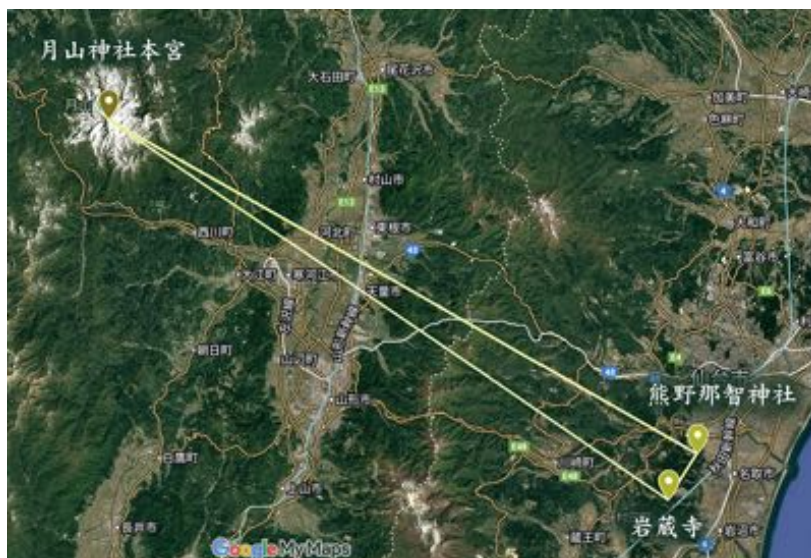


■浅川聖観音堂

平石菊池家一族の守り本尊という。正平年間（1346～1370）九州の 菊池武房の孫武時の子武吉が陸奥に下り、各地を巡歴の末この平石を永住の地と定め、お堂を建て平石の鎮守として崇敬したという。御本尊は一寸八分の金の尊体で、元弘 3 年（1333）浅草観世音のご本霊を賜ったものと「浅川聖観音由来記」に記されている。※松川町の史跡・文化財等ガイドマップより抜粋 福島市松川町浅川平石 2 2 - 2

●古事記の一節にも名を残すという福島の黒沼神社とつながった。719 年に高館山のこの場所に決めた理由の祭祀線だと思われる。ただ、熊野那智神社はもともと羽黒飛龍神として祀ったとある。ならば、羽黒山とどのように繋がっているかを調べてみた。

月山神社



■熊野那智神社 →→81.461km→→→ 月山神社本宮 →→→ 81.461km→→ 岩蔵寺



■月山神社本宮

社伝によれば、崇峻天皇の第3皇子である蜂子皇子が推古天皇元年（593年）に羽黒山を開山し、さらに同年、月山を開山して当社を建立したのだと言う。蜂子皇子は土地の人たちの面倒をよく見て、悩みや苦しみに耳をかたむけたことから「能除仙」と呼ばれるようになったとされる。しかしながら、史料から考察する限り、開祖である能除仙と蜂子皇子が同一人物であると言う根拠は無い。また、磐舟柵が3度目に修理された文武天皇4年（700年）から出羽郡が建てられた和銅元年（708年）の間に越国以北の夷征が行われたが、出羽の蝦夷征討が開始される前に出羽三山へ登ることは出来なかったと思われる。『新抄格勅符抄』の宝亀4年（773年）10月符では月山神に神封2戸が寄せられているが、これが月山神の史上における初見である。『日本三代実

録』には月山神の記事が度々登場し、神階の陞叙を受けるなどしている。

祭神 / 月読命

神仏習合により月山神の本地仏は阿弥陀如来であると考えられるようになったが、八幡神の本地仏である阿弥陀如来が、月読命になぞらえられた月山神の本地仏となったのは東北的な特性であると言え、浄土教の浸透が阿弥陀如来信仰を月山に導いたと思われる。室町時代まで月山の神は八幡大菩薩とされていた。なお、月山の縁年は卯年とされ、卯年に参拝するとご利益が上がると言われている。

■岩蔵寺（がんぞうじ）

平安時代初期の貞観2年（860年）に創建されたと伝えられる、岩沼市最古の寺院。現存する薬師堂は戦国時代から江戸時代初期に築造されたと考えられています。

●しかし、羽黒山自体とは繋がってはこなかった。ただ唯一、出羽三山の一つ月山の山頂にある月山神社本宮とはつながっていた。とはいえ、岩蔵寺の創建は860年。これは岩蔵寺の場所を決めた祭祀線といえる。羽黒飛龍神社（熊野那智神社）が出羽三山と関わる祭祀線は見つからなかった。便宜上、羽黒を使う理由でもあったのだろうか？

大谷金輪寺



■金輪寺跡 →→60.723km→→→ 熊野那智神社 →→→ 60.723km→→ 水上神社
 →→→ 60.723km→→ 烏帽子山八幡宮
 →→→ 60.723km→→ 武隈稻荷神社
 →→→ 60.723km→→ 秋山 稻荷大明神



朝日町史「朝日岳信仰」より抜粋

川西町上小松にある真言宗大円寺に『朝日嶽縁起』は朝日岳信仰の内容が文章化されている。朝日嶽三所権現の縁起をのべ、三社が大富・女躰・子守の各権現で、本地仏はそれぞれ弁才天・大日如来・正観音であるとする。文末の古老の伝承はともかく、弘仁年間（810～824）に教旻という僧侶が、朝日山麓の大谷に来往して、朝日岳金輪寺を建立し、周辺には朝日三十三坊と呼ばれる宗教集落が成立したという記録は検討されなければならない。

この縁起を書いた行賢は、大円寺の世代記によると、中興開基から数えて十四代に当たり、永禄二年（1559）12月に没したと記されている。同寺にある他の記録によると、先祖は大谷の金輪寺住僧で、朝日岳三社権現の別当職を勤めていた。ところが永正年中（1504～21）に金輪寺が坊舎も含めて焼失し、再建居住が困難のため、天文年中（1532～55）行賢が上小松村の亀森天神別当の院跡へ移ったという。朝日岳権現の祭礼は、古くは7・8月に行なっていたが、麓大谷の居住を離れたため例年の八月はできなくなり、10年に一度の登山を行い、三社権現の祭礼は八月一日から七日まで亀森山の社中で勤仕している旨を記している。

この文書には「朝日嶽三社大富・女躰・子守権現、従往古堂社無之霊地ニ候」と書いて、別当寺金輪寺はあるものの朝日岳三社は、社殿を持たなかったとしている。

大谷の地が問題になる。朝日町の大谷と考えたいが、多少の問題はあるだろう。現在の白鷹町・長井市・小国町・飯豊町・川西町に大谷の地名を探してみたが、小字にも見当たらないのである。永正年間に消失したと伝える金輪寺と朝日三十坊とされる朝日岳信仰のひとつが大谷であったと考え、もとの大谷集落跡も含めて今後の検討課題としたい。



-大円寺の観音経裏面の書き込み-

朝日先達 坊中 本坊 金輪寺 大圓寺 平圓寺

朝日岳金輪寺のほか、大円寺・平圓寺の2ヶ寺があり、それぞれが先達の坊を支配して一つの宗教集落を形づくっていたように思われる。

●金輪寺跡は、祭祀線を調べて朝日町大谷にあることが判明した。詳しくは「朝日嶽信仰 金輪寺・大圓寺・平圓寺はどこにあったか!？」を参照ください。

■水上神社

水上神社は、元禄10年に悲願だった和合堰の開削を記念して建立されたと伝わります。和合堰の開削は送橋川より水を引く大工事だったそうです。その後、文久3年(1863)に「水上神社」の社号が許可され、和合堰の守護神、地区の鎮守神として現在に至っています。毎年4月に村を挙げて盛大なお祭りが行われています。※あさひまちエコミュージアムサイトより抜粋 西村山郡朝日町和合

■烏帽子山八幡宮

寛治七年(一〇九三)清原武衡が乱を起こし、源義家が当国に下向して鎮定したが、その弟加茂二郎義綱が北町八幡沢に祠を建て勝運の長久を祈ったのが起源。その後蒲生氏、伊達氏、上杉氏等領主の崇敬頗る深く、山林や神田等寄進も多かった。明治六年に村社、同十二年に郷社となる。

地域住民の守護神として尊崇も篤く、境内が余りにも狭いため、明治十九年現在の烏帽子山の風光明媚な地を選び五ヶ年の歳月と延六万三千人の人夫と七千九百人石工を動因して完成した神苑に、明治二十三年社殿を新築遷座、明治三十五年県社となり、平成十七年に社殿を再建。

祭神 応神天皇 菅原道真 鳴雷神

●大朝日岳と大沼浮島弁天島の同距離に位置する。実は私の産土神でこの神社の前に生家があった。

■武隈稲荷神社

御祭神 稲倉魂命(いなくらたまのみこと)

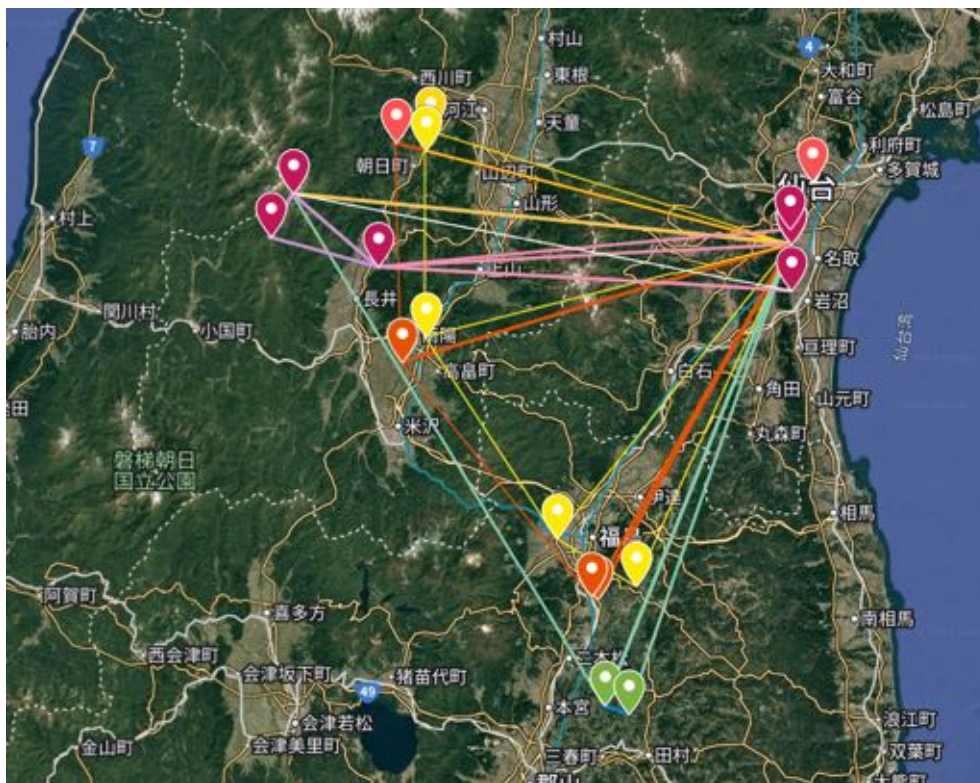
西暦八〇〇年代に、大洪水があって松川が氾濫、野寺村を横断して大窪谷地を通り須川に合流した。それからこの川を境として上野寺村と下野寺村とに分村し、両村にお寺が建てられました。上野寺村には、元慶四年(八八一)に、上野寺字和田の稲荷山に「稲荷山大林寺」が建てられました。当時は寺を建てる時には、守神としての神様の社も建てられていましたが、口伝によれば、室町時代(一三三八-一五七三)に入ってから、稲荷山大林寺境内に「武隈稲荷大明神」が建立されたとされています。これが「武隈稲荷神社」の前身です。古書には、「老の精霊を担うて来る稲荷明神として祀る」とあり、農神「稲倉魂神」の使神として宮を造り、阿武隈川の西なれば、武隈稲荷神社として今日に至るという」と残されて

おります。※武隈稲荷神社由緒板より

■秋山 稲荷大明神

詳細不明 福島県伊達郡川俣町秋山稲荷沢16

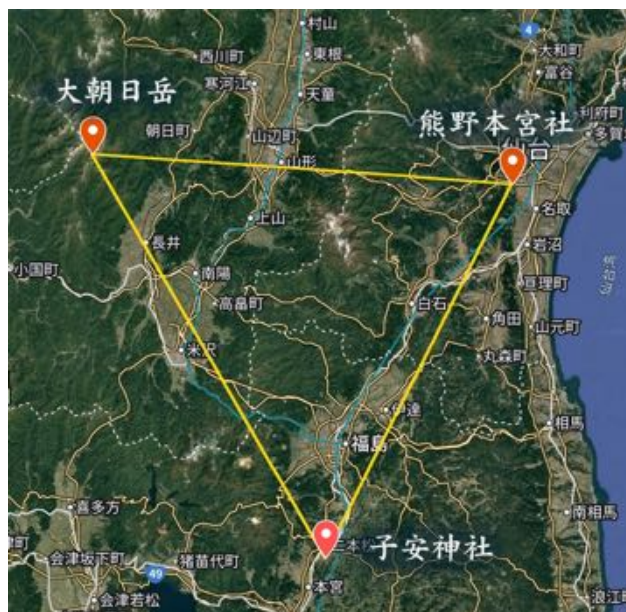
●熊野那智神社の全祭祀線を表してみた。



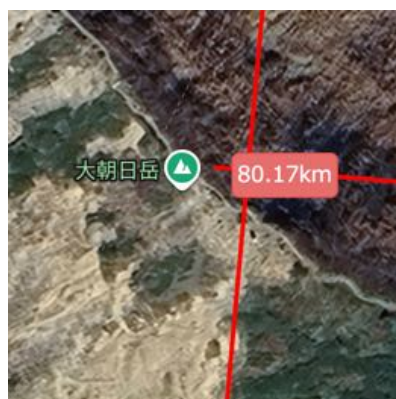
●次は熊野本宮社を調べてみる。

熊野本宮社

大朝日岳



■大朝日岳 →→80.170km→→→ 熊野本宮社 →→→ 80.172km→→→ 子安神社（二本松市岩崎）



■熊野本宮社

名取熊野三社の一社として保安元年(1120 年)に創建。創建当時は現社地より 500m 程南西の小館という小高い丘に鎮座していた。また地名も紀州熊野本宮大社の大齋原に準えて大原と称していたという。

源頼朝が奥州平泉東征をする際、当社に武運を祈願し軍に赴き靈驗あらたかな様を覚え、文治 5 年(1189 年)9 月再び詣でて深く謝

拝したと伝えられている。それ以来武家諸公の崇敬が篤く、永禄 6 年(1563 年)12 月、奥州探題伊達晴宗より熊野本宮本殿屋根葺替並びに神輿、神馬、馬具等が奉納されている。

万治元年(1658 年)に現社地に遷座。現本殿は元禄 6 年(1693 年)に建て替えられ、長床、鐘楼、神輿殿などの建物が建てられた。また昭和 8 年(1933 年)に拝殿、社務所、摂社を建設し、昭和 58 年(1983 年)に

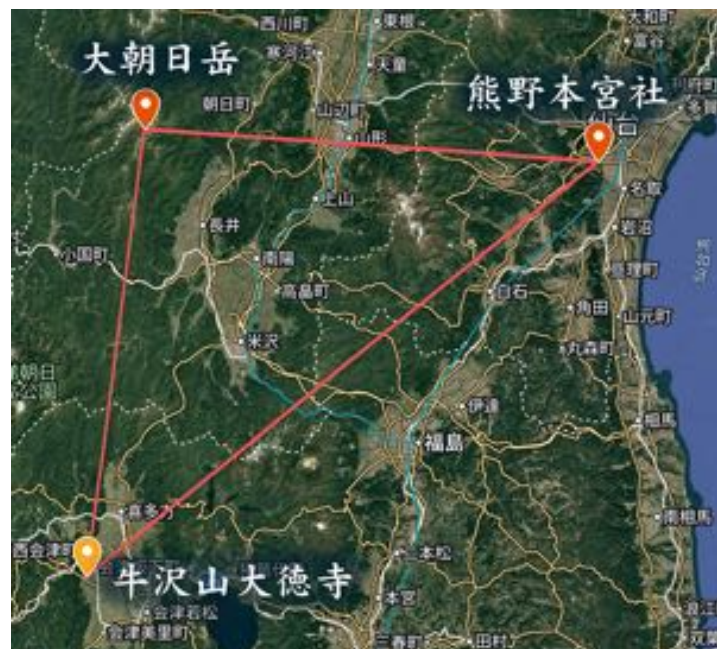


本殿を営繕し幣殿、社務所の建替え整備が行われている。社地の前には熊野本宮大社の傍を流れる川に見立てた音無川が存在する。また、当社には古く山伏によって伝えられたという市指定無形民俗文化財の熊野堂十二神鹿踊が保存継承されている。

主祭神/熊野櫛御家都御子大神、熊野牟須美大神、熊野速玉之男大神。他に 11 柱神を配祀する。

■子安神社 詳細不明 福島県二本松市岩崎 1 0 0

●子安神はコノハナサクヤヒメであるし、磐座の上にお堂が建っている
ので出雲系では。大円寺『朝日嶽縁起』ではコノハナサクヤヒメは大日
如来だとしている。



■牛沢山大徳寺→→80.179km→→→大朝日岳→→→ 80.179km→→ 熊野本宮社

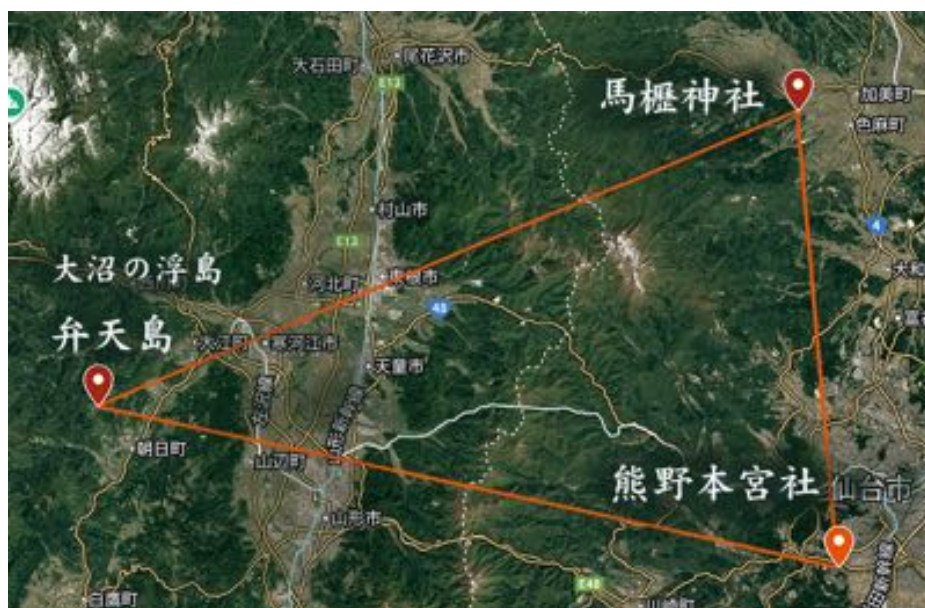


■牛沢山大徳寺

永享 10(1438)年、天寧寺の僧/南英の弟子/大円が、この地で再創建。牛沢山、曹洞宗。

天正 9(1581)年、僧/高岩が天寧寺/仁庵を講じて再開山。庫裏の中に追われる者を庇護する隠し部屋がある。変装するための衣装も用意されていた。福島県河沼郡会津坂下町牛川中島 2 5 9 6

大沼の浮島 弁天島



■馬樞神社→→64.871km→→大沼の浮島 弁天島→→64.871km→→ 熊野本宮社



■馬樞神社

勧請年月不明。明治 41 年 12 月村社列格。翌年 12 月出羽、馬頭、羽黒の 3 社を合祀する。

祭神/保食神 宮城県加美郡色麻町高根字若林 37-2

大谷 金輪寺跡



■大谷金輪寺 →→59.911km→→→ 熊野本宮社 →→→ 59.911km→→ 鬼面石（南陽市金山）
→→→ 59.911km→→三十三観音頂上（石巻）



鬼面石 サイト「滞在して楽しむ南陽」様より抜粋

■三十三観音頂上 詳細不明

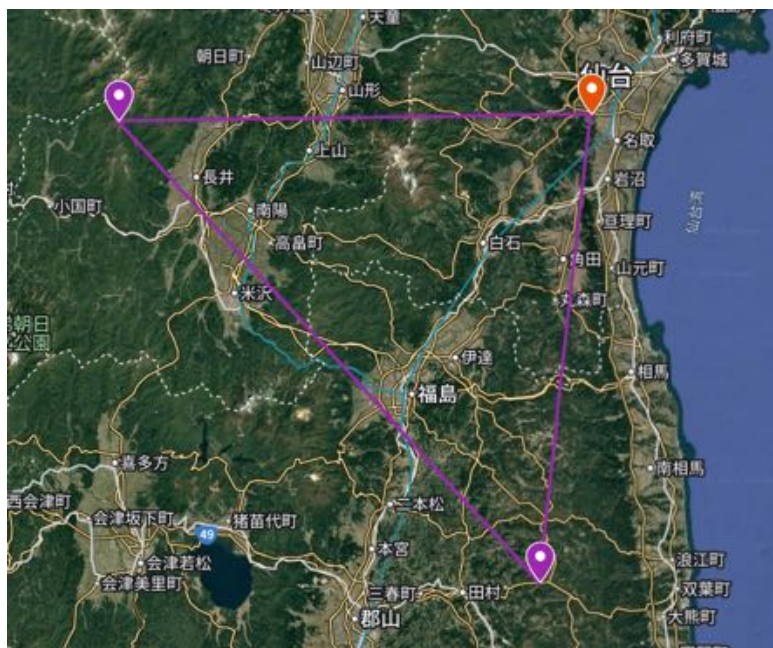
■鬼面石

南陽市金山の砥石沢金山では慶長年間に金が発見され、採掘が始められた。それ以前、金山は神山郷と呼ばれていたが金山村と改名したという。付近には寛永十九年（1642年）頃栄えた素金万分という素掘金鉱の跡がある。砥石沢金山が栄えていた頃、近くの鬼面石という巨岩の洞穴に鬼が棲み付き、旅人を襲って金品を奪い取っていた。鬼は七日に岩と岩に竿を架け、綺麗な着物を虫干しするという。それを見た者は長者になるとも盲目になるともいい、その岩を鬼面石と呼んだ。このような伝説が伝わっている。

●写真を見て「これはつながっているでしょう!」と納得した(笑)さっそく見に行こう。

●熊野那智神社も熊野本宮社も朝日町三処（大朝日岳・大沼の浮島・大谷金輪寺）とつながっていた。

祝瓶山



■祝瓶山山頂 →→83.759km→→→ 熊野本宮社 →→→ 83.759km→→ 長岩寺



■祝瓶山（いわいがめやま）

祝瓶山は朝日山地の主峰・大朝日岳から南南西に伸びる山稜の上に位置している。標高は 1500m にも満たないが、岩陵が発達する極めて峻険な山容を示す。このことから、俗に東北のマッターホルンとも呼ばれる。祝瓶山の北稜部が磐梯朝日国立公園の出羽三山・朝日地域に含まれている。なお、祝瓶山は、地質学的には朝日山地のほかの山と同様に花崗岩を中心とした深成岩からなる山である。



サイト やまがた山さんより拝借

■龍燈山 長岩寺

1000 年以上の歴史を誇る古刹。長岩寺に安置されている薬師如来は嵯峨天皇の時代（809 年）いずれの出身、生い立ちも知れぬ大徳峯宇という老翁が、7ヶ年とも伝えられる長期の都路の里の干ばつを救わんとして背負い来たと伝わる仏像で約 1200 年前のものとされ、それを証する長岩寺の由来記と併せて指定される。長岩寺に伝わる薬師如来の由来を証するもので巻物には雨乞の経過など事細かく記載されている。薬師如来とともに長岩寺に保管されている。曹洞宗

田村市都路町岩井沢字中作 106

●曹洞宗は鎌倉時代からなので、改宗した歴史があるのだと思う。名前に龍・長・岩と出雲族由来の漢字が三つも入っている。

湯殿山神社



■湯殿山神社御神体岩 →→83.001km→→→ 熊野本宮社 →→→ 83.001km→→ 歌建山 津龍院



■湯殿山神社

湯殿山神社は、山形県庄内地方にひろがる出羽三山（月山・羽黒山・湯殿山）のうちの、湯殿山の中腹にある。湯殿山は月山に連なるものであり、湯殿山神社は、月山から尾根を西に 8km 下りた地点にあり、また、月山より流れる梵字川沿いにある。古来から修験道を中心とした山岳信仰の場として、現在も多くの修験者、参拝者を集めている。湯殿山神社は、本殿や社殿がない点に大きな特徴があるが、もともと湯殿山は山岳信仰の対象であり、山自体に神が鎮まるものとして、人工的な信仰の場をつくることは禁じられてきたという。

明治以前、三山において神仏習合の信仰が盛んだったころ、羽黒山は観音菩薩（現在）、月山は阿弥陀如来（過去）、そして、当時三山のうちに含まれていた葉山や薬師岳は薬師如来（未来）とされた。一方、湯殿山は「三山」というよりもそれらを超えた別格のものとして、大日如来とされていた。

こうして、出羽三山においては、観音菩薩・阿弥陀如来・薬師如来の導きにより現在・過去・未来の三関を乗り越え、大日如来の境地に至って、即身成仏を達成するという「三関三渡」の修行が行われることとなった。この修行においては、裸足で御神体（湯殿山）に登拝することが、大日如来と一体になる行為とされ、非常に尊ばれた。また、村山地方においては、現世利益の神として病氣平癒や水利、先祖供養として参拝し、15 歳になると「御山参り」と称して詣でた。江戸時代、これらは講と呼ばれ、出羽国をはじめとして新潟や関東からも参拝に訪れ、講中が参拝を記念して供養塔（湯殿山碑）を建立した。

古来、湯殿山については一切口外しない「問わず語らず」が慣わしとされ、現在も御神体などの写真は厳禁とされる。元禄 2 年 6 月（1689 年 7 月）に、月山に登り、湯殿山を訪れた俳聖 松尾芭蕉も、「語られぬ 湯殿にぬらす 袂かな」の句を残した。また、湯殿山神社の本宮では、参拝の際に裸足になり、祓を受けなければならない、俗世と隔離された神域として認識されていることがうかがわれる。

■歌建山 津龍院

津龍院は応永 16 年（1409）に田束山の麓に創建されました。創建当時は天台宗で、開山は全照満庵上人です。現在の館浜の地に開山したのは啓南乾迪和尚で永禄 6 年（1563）に稲渕城主、馬籠四郎兵衛が開基となり移転し、この時に曹洞宗に転宗寺格昇等したと伝えられています。

●湯殿山の神気も引き込んでいたかと思ったが、津龍院が湯殿山と熊野本宮社の神気を得るための祭祀線だった。

流鎚馬神社



■熊野本宮社 →→83.001km→→→ 熊野那智神社 →→→ 83.001km→→→ 流鎚馬神社

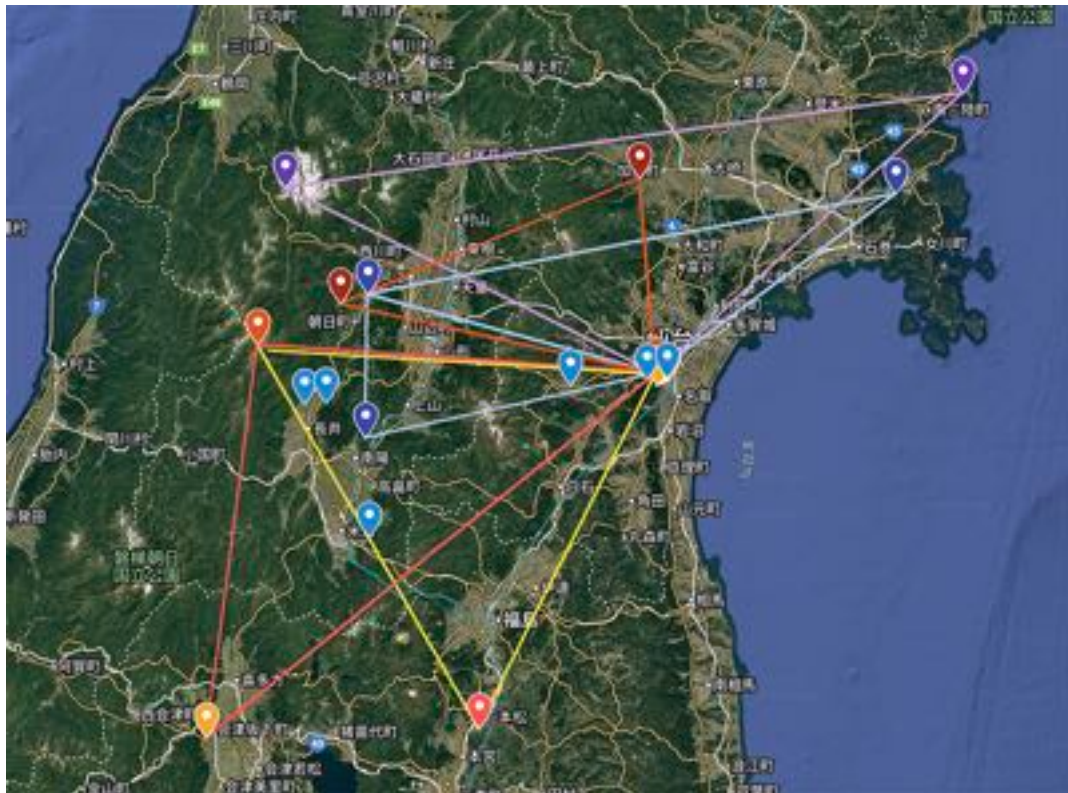


■流鎚馬神社

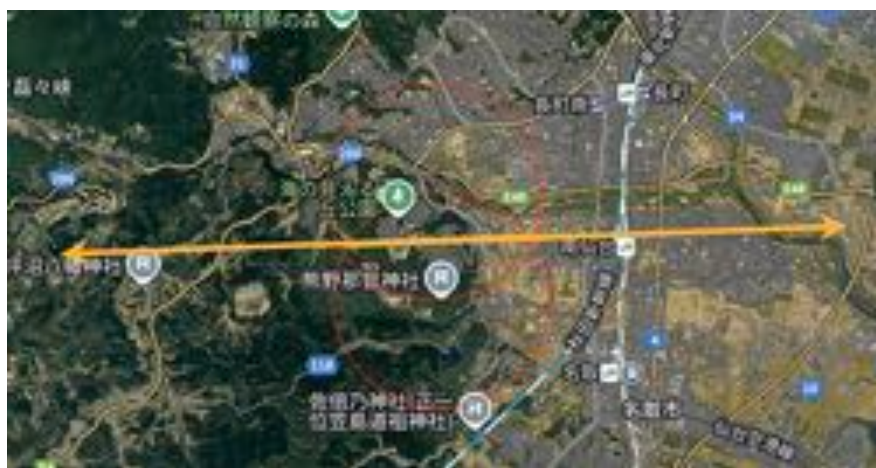
三浦宗家は、文治5年（1189年）奥州合戦の凱旋帰路の9月9日、頼朝公より三浦義村の末裔が名取熊野神社において流鎚馬の神事を行うようにと仰せ付けられ、以来、昭和44年（1969年）まで、同神事を執り行ってきた。 名取市高館吉田乗馬

●流鎚馬は熊野神社の神事。

●熊野本宮社の見つかった全ての祭祀線



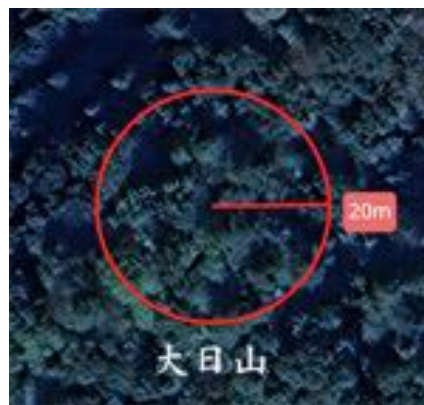
●次は熊野那智神社と熊野本宮社の間の同距離に何の社寺があるかを探してみた。すると…



大日山



■熊野那智神社 →→66.638km→→→ 大日山 →→→ 66.638km→→ 熊野本宮社
 八咫鳥社 →→66.638km→→→



●朝日岳信仰を調べていて、気になる山だった白鷹町の大日山と繋がって驚いた。おかげで大日山を詳しく調査するにきっかけになった。

●大日山は大朝日岳山頂三角点と祭祀山だった祝瓶山山頂と同じ距離にある標高 300m ほどの独立山。大朝日岳も祝瓶山も開祖は役の小角で朝日岳信仰にとって大切な聖なる山となっている。大日山山頂には大日如来を祀った大日堂がある。現在は地図に山名も表れず普段は草に覆われて登れないほど地元の皆さんだけの聖地となっているが、調べてみるとここにたくさんの祭祀線が集中して、朝日岳信仰が盛んだった頃の大切な遥拝所だったことがわかった。大日山についての詳細は別頁「朝日岳 遥拝所 大日山」を、祝瓶山についての詳細は「道真公の無念を晴らす朝日嶽修験 祝瓶山」をご覧ください。



●さらに驚いたのは、金運上昇のご利益で有名な金蛇水神社ともつながっていた。もともと熊野那智神社は 719 年創建の羽黒飛龍神社だったので、この祭祀線は双方の神社に朝日岳の神気を取り込むための祭祀線といえる。そして、のちに熊野本宮社も同距離に建てられたと考えられる。



■熊野那智神社→→→ 66.638km→→大日山 →→→ 66.638km→→ 金蛇水神社

■金蛇水神社

創始年代不詳。人々がこの地に住み農耕をはじめた時に、山より平野へ水の流れ出るこの場所に水神をおまつりしたものと思われる。社名については、次のようにつたえられている。平安時代中頃一条天皇の御代、京都三条の小鍛冶宗近は、天皇の御佩刀を鍛えよとの勅命を受け名水を求めて諸国を遍歴してこの地に至り、水神宮のほとりを流れる水の清らかさに心をうたれた。早速、水神宮に祈願をし、炉を構えて刀を鍛え始めたが、カエルの鳴き声で精神統一ができず、よい刀が打てずにいた。そこで宗近は巳のお姿をつくり、田に放ったところカエルはピタリと鳴き止んだ。無事素晴らしい刀を鍛え上げることができ



た宗近は神への感謝のために巳のお姿を献納し都に帰った。以来、水神宮ではこれを御神体と崇め、社名も金蛇水神社と称するようになったと言う。

祭神/金蛇大神（水速女命）古くよりこの地に祭られる水の神。古来、龍や蛇は水神の化身とされる。

相殿神に 大己貴命(大国主命)・少彦名命をお祭りしている。

宮城県岩沼市三色吉字水神 7



●金蛇水神社の御祭神は水の神様の金蛇大神（水速女命）。これはミヅハノメと読めるので出雲系の瀬織津姫とも推定されている神様。朝日岳信仰とつながっていておかしくない。

●さて、出雲系神社なら社殿は聖地へ向いている場合が多いのだが、やはり熊野那智神社と熊野本宮社の社殿は大日山に向かうラインと同じ角度に絶妙にかたむけて建てられている。（紫のライン）しかし、金蛇水神社は角度がかなり北に傾いている。謎は簡単に解けた。建物の角度に合わせてライン（白のライン）を引くと大朝日岳にぶつかる。朝日岳を遥拝するように建てられている。



●最後に熊野新宮社を調べてみた

熊野新宮社

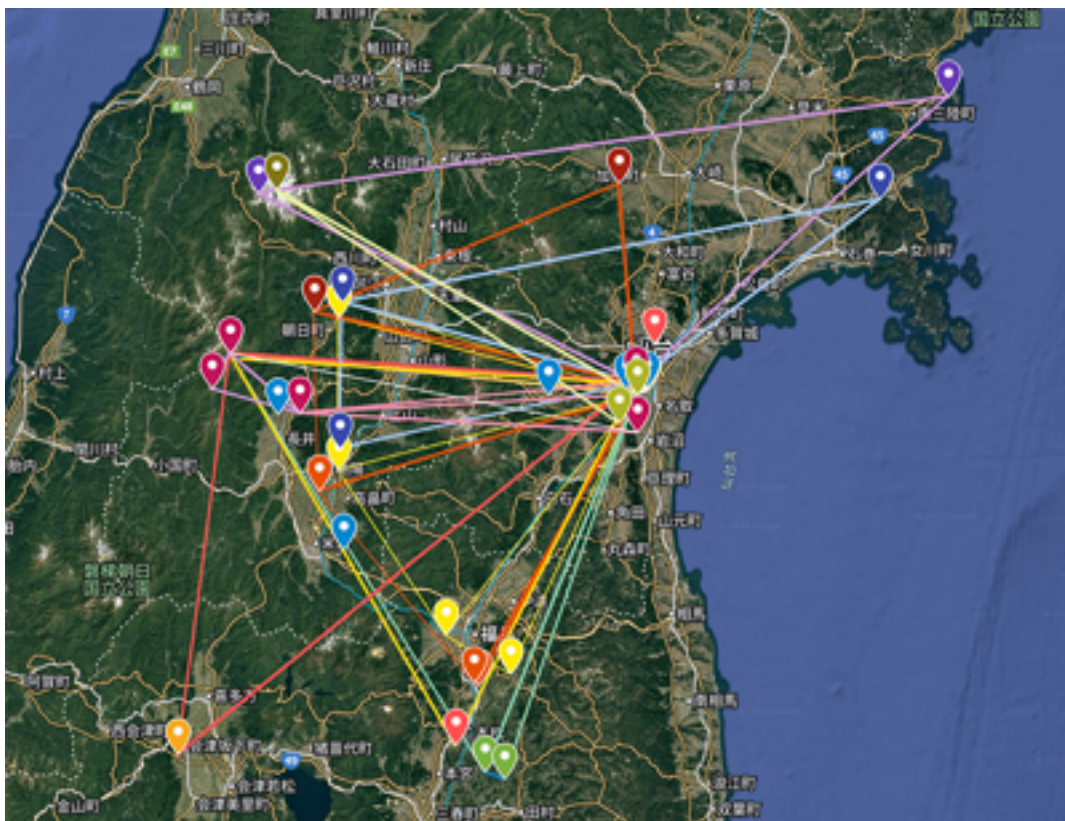
■熊野新宮社

熊野神社は、保安4年（1123年）に名取老女が創建したとされる熊野三社の一つで、江戸時代以前は新宮社と呼ばれ、熊野神社文書や一切経など、国・県・市の指定を受けた貴重な文化財が多数伝えられています。境内の奥には、熊野信仰と関係が深い建築様式で、江戸時代初期に建てられた県指定の熊野神社本殿があります。また、ご神池の浮島に建つ神楽殿では、毎年4月と10月の例祭で熊野堂神楽が披露され、池の中に組み立てた特別な舞台で舞われる熊野堂舞楽は、年1回、4月の例祭の時しか見ることができない貴重なもので、神楽と共に県指定の無形民俗文化財になっています。

高館熊野堂字岩口上 51

●不思議なことに、朝日町の聖地三処（大朝日岳・大沼の浮島・金輪寺）とも祝瓶山や大日山とも、まったく繋がっていなかった。どうやら朝日岳信仰ではない。ということは、出羽三山（羽黒・月山・湯殿山）かと思ったがやはりつながらなかった。社殿の向きに合わせて北西にラインを伸ばしてもどこもぶつかなかった。どうして新宮社は朝日岳信仰とつなげなかったのか…。もっと当時の歴史を知らないか祭祀線は見つからないのだと思う。

●熊野那智神社と熊野新宮社の全祭祀線を表してみた。



まとめ

●名取老女の朝日巫女と朝日岳信仰は大いに関わっていた。きっと「朝日の巫女」と呼ばれていたのではないだろうか。これらの祭祀線が名取老女伝説の解明にいささかでもお役に立てるなら幸いです。

(2025 年 9 月 8 日 竜天太陽記)